

### <金標準、ポジティブサプライズを受け 23000 円へ・・・>



(出所：オアシス)

米国とイランの 60 日間の停戦協議が頓挫するリスクが高まった事から原油価格の上昇、米国債 10 年債の金利上昇を受け、金標準先物は 8 日に 23645 円の高値から 11 日には一時 21232 円まで下値を試すなど、4 日間で 2413 円の下落を行っている。特に消費者物価指数 (CPI)、生産者物価指数 (PPI) の発表を受け利上げ観測が高まる中で、米国とイランの停戦が頓挫するリスクも重なるなど、リスク逃避でドルが買われる動きを強めており、6 月 9 日時点でドル高を見込むポジションが 278 億ドル相当と 2025 年 2 月以来の高水準まで積み上げられるなど、ドル建て価格にとってドル高の動きは金市場から流動資金が逃避する状況であり、金価格を押し下げる要因に結び付いている。しかしトランプ大統領がイランとの 60 日間の停戦協議の暫定合意を示唆した事から週末はリスクの巻き戻しで 22303 円まで戻りを見せている。そのため原油安・金利低下とリスク緩和の動きを示しており、目先の戻り高値でもある 23000 円へ向けた買い戻しの動きを強めて来ると思える。

#### <テクニカル>

金標準先物の日足の MACD では、MACD が下げ止まり、シグナルは切り下げている。RCI は短期が下げ渋り、長期は維持している。特に日足が指数平滑移動平均線のレンジを下回るも短期 A が位置する 22237 円を上回る可能性は高まっていると思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 5,370,000 円(2026 年 6 月 15 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 50 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 97,680 円(2026 年 6 月 15 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)  
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター  
<https://www.nisshokyo.or.jp>